

みんなでできる、身近な流域治水

台風や集中豪雨などによって大雨が降った際に、家庭でのちょっとした心がけが「流域治水」につながる場合があります。

流域治水とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化などを踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策とあわせて、集水域(雨水が河川に流入する地域)から氾濫域(河川などの氾濫により浸水が想定される地域)にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。

①庭の土や植物も役立っている

庭に土や植物があると降った雨水が一度に流れず、自然に地面にしみこんでいきます。



②雨水をためて庭の水まきに

雨どいから流れ落ちる水をバケツにためておくと、晴れてから庭の水まきや花への水やりなどに利用できます。



③庭にある池にも役割があります

庭にある池も、雨水をいったんためる役割を持っています。



④大雨の時はお風呂の水を流すのをちょっと待って

特に大雨のときは、お風呂の水を流さず、ためておくのも工夫のひとつです。



生ごみ堆肥の「ひなた堆肥」は、家庭で1〜2か月、パークで4か月以上かけて発酵させ、完熟堆肥にするもので、市内の家庭では約200人が取り組んで

います。生ごみ堆肥化ケース「ひなたぼっこ」を使って家庭で1次発酵させた堆肥をパークへ持ち込めば、2次発酵し完成した16リットルのひなた堆肥がもらえます。取り組むためには、パークへ連絡し堆肥化講座を受講してください。受講費は2千円ですが、必要な費用はこれだけで「ひなたぼっこ」が1個付いてきます。「ひなたぼっこ」で作った堆肥で栽培したオーガニック野菜はおいしいだけでなく、ごみも減らせるので、地球にやさしく好評です。

リサイクルパークは、15年前にオープンしました。順調に稼働し、来場者数は30万人を突破しています。パークの目的は「ごみの減量化」を通して地球温暖化防止に貢献するというものです。事業の柱は、生ごみ堆肥化によるごみの減量化とリサイクルの推進です。有機栽培の「ひなた野菜」販売、不用となった服や食器などを安く販売する「もったいないやん」などがあり、コロナ禍で、人の動きが制限される中でもパークの利用者は増加しています。また、月に1回程度、環境共育講座を開催しており、古着による布ぞうり作製やプランターでの有機栽培などに取り組む人気の講座となっています。

108SMILE
市民活動団体紹介
つながり. 18
[NPO とばりサイクルネットワーク]
108SMILE ホームページ
URL <https://108smile.jimdofree.com/>



市民課人権・市民交流係
☎ 25 1126



ひなた野菜販売



環境共育講座 プランター有機栽培

リサイクルパークは、現在18人のNPO会員によって運営されており、新規会員は随時募集しています。

います。生ごみ堆肥化ケース「ひなたぼっこ」を使って家庭で1次発酵させた堆肥をパークへ持ち込めば、2次発酵し完成した16リットルのひなた堆肥がもらえます。取り組むためには、パークへ連絡し堆肥化講座を受講してください。受講費は2千円ですが、必要な費用はこれだけで「ひなたぼっこ」が1個付いてきます。「ひなたぼっこ」で作った堆肥で栽培したオーガニック野菜はおいしいだけでなく、ごみも減らせるので、地球にやさしく好評です。